

戦闘的動労運動の確立へ今こそ決起しよう！

日刊 動労千葉

79.7.22

No. 全国版 23

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄道二三五八九・公愚園宅（22）七二〇七）

反動的な第35回全国大会方針

全国の動労組合員のみなさん。

「本部」は動力車新聞号外（一九七九年7・7付）で一九七九年度運動方針（案）を発表し、職場討議にかけてきました。

この方針案こそは、動労運動の変質と「本部」反動革マル分子のさらなる動労私物化への野望を体現したものであり、熊本大会の場において正しく修正されなければなりません。

鮮明な動労千葉破壊策動の破産！

この方針案の問題点は、第一に、この一年間の最大の組織問題としてあった動労千葉破壊策動について、別冊にすると称して職場討議に付そうともしないことです。

このことは逆に言えば、動労千葉破壊策動が、職場討議に付すこともできないほどの破産に瀕しているということを表わしているということです。さらに、この方針案では三里塚・ジェット闘争について一言も触れていません。昨年津山大会で「反対同盟と一線を画して闘う」と主張したことが全くのベテンであったことが、ますます鮮明になっていと言わなければなりません。反動分子が、昨年、津山大会で千葉地本排除のためにのみ「一線を画する」方針を出してきたのだということとを自己暴露しているのです。

安定宣言で反合闘争が闘えるか！

この方針案の第二の問題点は、迫りくる七万四千合理化に対する闘う方向性が全く出されていないということです。

総括の部分と方針の部分で国鉄合理化の分析についてブレがあるように、「安定宣言」に対する確信のなさにはつきりしており、「貨物をストに入れることもあり得る」「改革要求闘争をやったゆく時期にきた」などというろく書かれていますが、要するに結論は「55・10も安定宣言で闘う」と言っているに過ぎません。「55・10も安定宣言で勝利した」と信じている組合員が一体何人いるのでしょうか。

一貫した暴力路線強化方針！

第三の問題点は、この方針案の中に巧妙に、し

80年代をきりひらく動労千葉とともに

7・28国民大集会

●とき 7月28日（土）午後5時半
●ところ 千葉市民会館

（国鉄千葉駅より徒歩5分）

かし、見えすいた手口でセクト運動、暴力支配のための方向性もぐり込まされているということです。

「このことにこそ革マル分子はかけている」と言っても過言ではありません。

それはひとつには、「水本」について見出しにせざるにひっそりともぐり込ませてある中味が、「動労の側から権力犯罪と闘っている諸団体との交流を深め、将来統一し・・・」「『水本事件の真相を究明する会』に主体性をもって参加」「『真相を究明する会』で準備されている機関紙の発行に、執筆・購読・編集などの協力体制を確立し」「てゆくというところまでのめり込んでゆくこととして」であることであり、もうひとつは青年部の行動について「各執行機関は青年部長の活動を補償する指導云々」をはじめ、千葉「オルグ」で青年部が林委員長以下の中執も含めた親組合を引きまわした実態を正当化し、さらに強化しようとしていることです。

「動労千葉破壊」「三里塚敵対」「安定宣言」「水本謀略」等々、最も戦闘的であるかのようにふるまいながら、実は、労働者の側から戦闘的闘いを破壊しようとする「本部」革マル反動集団は、その右翼的方针がまじめな組合員から反発されることを百も承知で、暴力をもって批判を封じてゆくとしてきているのです。

反動分子との闘いなしに
動力車職場は守れない！

全国の動労組合員の皆さん。

このような反動分子に対する闘いを放棄したまままで動力車職場を守ることはできません。今こそ決起してゆこうではありませんか。

